

中国がロシアから新型 117S エンジンを大量購入

漢和防務評論 20170829(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

SU-35 の対中輸出は、ロシアにとって大幅譲歩であったようです。中国はロシアの足元を見て、有利に交渉を進めたようです。特に新型 117S エンジンを購入機数 24 機に見合った数よりも多く購入し、開発中の J-20 に搭載し試験飛行を行おうとしている、と KDR は見ています。ロシアは、インド市場が縮小したため、どうしても中国市場を確保しておきたいのでしょうか。ロシアは、現在対米、対欧州関係が不安定で、政治外交面でも中国を引きつけておきたいはずです。

KDR モスクワ YURI BASKOV 特電：

ロシア聯合航空機集団会社の権威筋は **KDR** の独占取材を受け次のように述べた：ロシアはすでに中国空軍に対し **SU-35SK** を 4 機提供した。契約全体では中国が相当多くの **117S** エンジンを購入することになっている。中国は **SU-35** を 24 機購入しただけであるが、購入機数に見合う数量以上のエンジンを購入している。プーチン大統領が新たな国家安全秘密保護法に署名して以降、輸出する武器の数量及び細部はロシアの国家機密となった。したがってロシアは、たとえ最高レベルの軍事工業責任者であろうとも、すでに中国に輸出された **SU-35** の関連機器の細部は口外することができなくなった。ロシアのメディアは、外国報道を引用して報道せざるを得ない。

新型 **117S** エンジンの模型はインド航空ショーに展示された。**KDR** は **117S** エンジンの改良点について詳細に分析した。いわゆるエンジンを溶接することによって（分解不可能にして）中国人に真似させない手法を採ったとの説について、設計師は次のように述べた：それは正しくない。**117S** エンジンの中段、変速機 (**GEAR BOX**) に多くのモジュール構造を採用し、分解整備を容易にした。したがってエンジンの分解整備と組立は早期型の **117S** に比べより一体化（モジュール化）した。

補足説明すると、ロシア国家武器輸出入総会社総裁は 2 ヶ月前に交代し、ロシアヘリコプター聯合集団総裁は、**A.MIHYEEV** から **A.ISAIKIN** に代わった。**MIHYEEV** はアブダビの **IDEX** 装備博覧会に参加した。彼は、国家武器輸出入総会社の航空部主任を勤め、何度も中国との **AL-31F** エンジンの輸出交渉に当たった。**KDR** 総編集（平可夫）は、何度も彼を取材したことがある。

その 1、**SU-35** の対中輸出は、實際上、ロシアが大きく譲歩した。通常の下では、ロシアの双発戦闘機は 2 基の予備エンジンを用意する。すなわち 1 機の双発戦闘機は全部で 4 基のエンジンを用意する。この件で **KDR** が受けた全体

の印象は、ロシアは、中国の要求に対して満額回答したように思う。この点についてロシア国防工業の責任者は、KDR に対し次のように述べた：我々の希望は、中国側がより多くの数の SU-35 を購入することである。なぜなら当初の交渉では輸入 48 機であった。中国人は我々に対して：中国は、SU-30MKK の対中輸出のように、まず最初に 24 機の購入を希望している。その後中国で試験した結果で継続輸入するかどうかを決定する。したがって中国は多くのエンジンと部品が欲しい、と述べた。

これらのことからロシアは一途に中国が継続して第二グループの SU-35 を購入することを求めていることが分かる。

その 2、プーチンが大統領に就任後、米露関係は依然として不安定で、露欧関係も短期間に改善するとは思えない。政治、外交面から、プーチンは、中国と安易に敵対することはできないのである。

その 3、ロシア軍事工業界にとって最も重大なことは、インドのロシア製兵器購入が大幅に縮小したことである。ロシア軍事工業界の消息筋は、インドのバンガロールで次のように述べた：2016 年、ロシアの軍事装備総輸出額は 46 億ドルであった。中露間で S-400 地对空ミサイル、SU-35 戦闘機の契約があったため、中露軍事貿易が第一位に上昇した。

露印軍事協力事業の多くは停滞したままである。例えば、FGFA T-50 第 5 世代複座戦闘機の共同開発計画である。インドは事実上計画を放棄し、資金提供を停止した。ロシア聯合航空機集団の責任者はインドで次のように述べた：ロシアは、インド空軍に対する単座型 FGFA T-50 戦闘機の輸出協議をいつでも開始できるよう準備している。この協議が今年完了するよう希望している、と。インド空軍の消息筋は：インドは、少なくとも 150 機前後の第 5 世代戦闘機が欲しい、と述べた。

インドが新時代の戦闘機の入札を行う計画に関して、インド国防部長は次のように述べた：インドは、2030 年に 300 乃至 400 機の単座或いは複座戦闘機を必要としている。”我々はこれらの戦闘機をインドで生産したい”と。現在、SAAB の GRIPEN、F-16 BLOCK70 が入札に参加している。これに対して、ニューデリーの多くの軍事アナリストは、KDR に対し次のように述べた：ロシアが MIG-35 をもって入札したとしても、可能性は低い。なぜなら SU-30MKI、FGFA T-50 も全てロシア製の武器である。なぜまたロシア製のシステムを輸入する必要があるのか？と。

同消息筋は次のように述べた：300 機の単発戦闘機の入札過程で、少なくとも 150 機は外国から導入する。スウェーデン SAAB 社の GRIPEN の可能性が高い、と。その他の 150 機は国産の TEJAS 軽戦闘機を当てたい、と。これらのことから、上述の 2 大計画は、ロシアが獲得するとは思えない。

インド国防部、ロシア軍事工業界の消息筋は次のように認識している：インドは、中国に継いで、S-400 の導入についてロシアと交渉中である。双方は、今年末までに協議を終えたいとしている。現在は、中国空軍用の S-400 が生産中である。しかし、ロシア国家武器輸出入総会社の代表は記者会見で次のように述

べた：2017年、ロシアがインドにS-400を提供することは不可能である、と。これらことから、ロシアは、インドの市場を失った穴埋めに、中国がより多くのSU-35を購入することを望んでいるようだ。

このように中国が大量の117S/AL-41Fエンジンを輸入する理由は、依然としてこれらのエンジンをJ-20の試験に利用し、或いはエンジン核心部品の開発に利用する可能性があるから、とKDRは考える。例えば、エンジンのファンを大きくして推力を増加する、などである。中国は、既にWS-10Aエンジンを基礎に、ファンを大きくして推力の増加を図っている。またJ-11Dを基礎にして、SU-35の概念を採り入れた中国式SU-35を開発しようとしている、と考える。

ロシア航空工業界の技術専門家は、KDRに対し次のように述べた：我々の推測は次の通り：中国は既に大量の資金を投入して、200個近い航空企業に新型エンジンを共同開発させ、また現有エンジンの改良をさせている。しかし我々の推測は次の通り：中国は7乃至8年かかってやっとロシアの標準的エンジンの品質レベルに到達できる。それまでは、中国は依然としてロシア製エンジンが必要だ、と。

次に、なぜロシアはこのように多くの117Sエンジンを輸出できるのか？消息筋は次のように述べた：我々は第5世代戦闘機の初期段階の開発を基本的に完了し同戦闘機の推力を20%高めることができた。このほか、ロシアは最新改良型のAL-41F S-1エンジンの使用を準備している。このエンジンは、インドが改良するSU-30MKI多用途戦闘機に搭載できる。このエンジンの材料は中国に輸出したAL-41Fの基本型よりも優れている。インドのSU-30MKIを改修する事業はすでに議事日程に上がっており、新型のAL-41 S-1エンジンを搭載することが考慮されるであろう。

以上